

3日必着

短歌 (投稿順)

わらぞうり自分で作り通学せし戦中育ち今も注連^{しづな}綱^{なわ}う
登山者の苦しみ支え磨かれた木々の突起に我、手を伸ばす
袖湯にて薫り癒され暖まり老いた体にビタミン補給
年賀状終ひに向けて横書きの我が名支ふるメールアドレス
「前向きに生きましようよ」と励まされ共に卒寿の友ありがたし
支え合い夫婦の絆六十年思い出残し夫は旅立つ
いつの日か免許返納つらつらと移動スパーへ押し車を押す
落葉して侘しき庭に一本の山茶花咲けり触れて笑ましむ
野に山に佐保の女神の訪れて新しき風渡らせ給う
正月は施設でなくて自宅にて喜ぶ孫はお年玉なり
ヨタヘロの足腰鍛え杖を突き日課の散歩町内探査
餅をつく湯気の香が好き穏やかに激しく過ぎた日々を見送る
終活のアルバム整理始めてもすぐに脱線未だ二十代
令和六年の世相いかにと問いたれば「金」の一語に総べて語らる
寒き日よ移動販売曲流る急ぎ寄り行く待ちてくれおり
なめんなよ俺の本気をみせてやるあきらめかけた自分自身にも

三沢 眞下 杏子
皆野 大澤 貴夫
皆野 村田ハツ代
皆野 打木 昭廣
皆野 浅見 豊子
下田野沢 新井 節子
三沢 新井 民子
三沢 新井 叶子
皆野 萩原 初恵
下田野沢 T・O
皆野 戸塚喜久雄
皆野 太幡琉美花
皆野 引間 万亀
皆野 根岸 詩子
国神 藤原マキ子
皆野 石原 達也

俳句 根岸茉莉選 投稿数 38 句

精出しぬ証の餅^{ひび}や厨事
皆野 引間 千鶴
(評)毎日の主婦の仕事はあれこれ限りなしです。特に三度の食事は家族の健康を考え、栄養バランス、塩分、糖分など気遣いです。若い時の細く煽やかな指は、歳を重ね節縛立ち餅でかさかさ。そんな手をさすりながら「よく働いた証」と思い台所に立つ作者です。元気で働けることも幸せですね。二句目、今年の抱負の書き初めでしようか。心の中まで温めるような陽光の部屋に、墨の香が広がります。優雅な初春ですね。三句目、数々の要職を経て役を終えた作者。「気ままに何でもできる」との思いの一方、少し寂しい気持ちもあると思います。けれど春近し、楽しいことが待っています。気ままな孤独の表現に惹かれました。

やはらかき陽のある部屋や初靨
三沢 新井 民子
老ふ毎に減りし賀状ようら悲し
下田野沢 浅見 豊子
逝きし夫入れてやりたし冬至の湯
下田野 新井 節子
冬休み六年最後の思いで作り
三沢小六年 島田 岳
クリスマスサンタまだかなねむくなる
三沢小三年 長島 芽依
おでんのねだいこんすきだほくほくだ
三沢小二年 加藤 世蓮

役辞して気儘な孤独春近し
国神 鈴木 正文
レシビ添え貰う鬼柚子巨大かな
三沢 眞下 杏子
大経師年の瀬一語「金」の文字
皆野 根岸 詩子
俯瞰して雲を貫く雪の富士
皆野 太幡琉美花
幸せは生きるということ冬北斗
皆野 櫻井 早苗